

幌延フォーラム2014 挨拶要旨

平成26年10月22日
幌延深地層研究センター所長 清水和彦

本日はお忙しい中、幌延フォーラム2014に足をお運びいただき、ありがとうございます。

当センターの業務について地域の皆さまにご紹介をする定例の機会を、年に3回設けております。今年も5月に本年度の研究計画についての説明会、8月には昨年度の研究成果についての報告会を開催しました。本日の幌延フォーラムは、説明や報告といった形式にとらわれずに、広く地域の皆さまに親しんでいただきたいという思いで、毎年秋に開催しているものです。

幌延深地層研究計画が平成13年3月にスタートして以来、ほぼ順調に施設の整備や研究開発を進めることができ、着実に成果をあげつつあります。これもひとえに幌延町をはじめとする地域の皆さまのご支援の賜物と深く感謝しております。

今年の6月に、地下350mの深さに研究用の水平坑道を整備するための工事が無事完了しました。出来上がった水平坑道は数字の8の形をしていて、全体で約760mの長さがあります。その中で、これから地層処分に関する様々な調査や実験を行っていきます。

この水平坑道については7月から一般公開しており、定期的な見学会も行っていますので、是非ご参加のうえ、地下350mの世界を自ら体験してみてください。

本日は、まず特別講演として、オロロン鳥（ウミガラス）で有名な天売島を拠点に自然写真家として活躍されております寺沢 孝毅さんをお招きして、「冷たい海の物語」というお話をさせていただきます。

その後、休憩をはさみまして、当センターの方から、地下350mの坑道の中の様子や研究の状況などをバーチャル見学会風に紹介させていただきます。

幌延深地層研究センターの地下施設については、いずれ処分場になるのではないかというふうにとり沙汰されることもありますが、繰り返し

申し上げているとおり、幌延町および北海道との3者協定に、「研究所に放射性廃棄物は持ち込まない」、そして「研究が終わったら地下の施設は埋め戻す」、「将来にわたって処分場にはしない」と、はっきりと書いてありますので、これに違反するような選択肢はあり得ません。

実際の処分場については、安倍総理大臣のリーダーシップの下、候補地を選定していくための検討が行われており、4月に政府が決定したエネルギー基本計画には、国が前面に立って科学的な見地から見た有望地を提示していくといった方針が示されました。この方針に沿って、実際にどのようにして有望地を絞り込んでいくのかといった条件を議論するための国の作業部会が、まさに明日(10/23)から始まろうとしています。

こういった国の取り組みを技術的に支え後押ししていくためにも、幌延での研究をしっかりと進めていかなければならないと、決意を新たにしているところです。

今後とも、三者協定の順守を大前提として、安全対策に万全を期し、情報公開の徹底を図りながら、研究開発に邁進していきますので、引き続き、ご支援、ご協力のほど、よろしく申し上げます。

以 上